様式1

港区立白金小学校

令和6年度　授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国語	・平仮名、片仮名、漢字を正しく書き、活用する力。 ・資料を活用するなどして、自分の考えを筋道の通った文章となるように全体の構成を考えて書いたり表現したりする力 ・言葉を使って他者と協働する力や、自分の感情や字考えを表現する力。また、学び続ける意欲や他者とのコミュニケーションを通じて自己を高める姿勢	・どの学年も漢字の定着や言葉の理解が十分でない。 ・文を読んで大体の内容は理解できるが、問題に沿って言葉を抜き出せなかったり、自己解釈が入って正確にまとめられなかったり、読み取りが浅かったりする。 ・目的意識をもって他者と協働しようとしたり、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたりする力の課題がある。	・授業やモジュールの時間、家庭学習を活用して、平仮名、片仮名、漢字練習をし、定着を図る。 ・文型を提示し、理由や具体例を入れたり資料を活用したりしながら自分の考えをまとめる練習を重ねる。また、ICTの活用により児童同士の学習過程や学習成果物を共有することで、表現方法の幅を広げる。 ・話し合いの目的や方法、相手を明確に示して指導する。教師による積極的なモデリングを行う。他教科との連携を図りながら話し合い活動を取り上げた単元の設定をし、話し合い活動の年間回数を保証する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
社会	・社会的事象の見方・考え方を働かせ、社会の様子や仕組みを理解する能力 ・資料から必要な情報を読み取る能力	・資料から必要な情報を適切に読み取る力に個人差がある。 ・社会的事象などについて学習用語を用いて説明する力が不十分である。	・資料の読み取り方を具体的に繰り返し指導するとともに、様々な資料に触れさせることによって応用力を身に付けさせる。 ・児童同士や担任と児童など形態を変えて、学習して分かったことなどを説明し合う機会を意図的に設定し練習する。学習のまとめなど発表の場を多く設ける。

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
算数	・数量や図形などについて基礎的・基本的な概念や性質を理解し、日常の事象を数理的に処理する力 ・見通しをもち筋道を立てて考察する力 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり、目的に応じて柔軟に表したりする力	・グラフや図形の意味や性質、構成要素の理解が十分でない。 ・日時や場所等の観点などからデータを正確に分類整理することが十分でない。 ・計算の意味などに着目し、これまでの学習と関連させたり、発展的に考察したりすることが難しい。 ・単位の付け忘れ、間違いが多い。 ・式の立て方の理解が十分でない。	・レディネステスト等により、算数少人数クラスを展開する。基礎基本の習得が必要なクラスと発展的な内容や自由進度学習を進めるクラスと指導体制の工夫を行う。 ・学習内容の定着が図れるよう個に応じた課題解決の時間を確保する。 ・これまでの学習と関連させて考えられるよう、課題提示の工夫を行い、自分の考えを表現させるペアやグループで話し合い活動を通して、よりよい考えや表現方法に気付くようにする。 ・具体物の操作を授業内で積極的に行う。 ・他者に考えを説明する活動を取り入れる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
理科	・観察や実験を正しく行う力 ・理科的な思考力・判断力を働かせて表現する力。 ・理科の学習用語を正しく理解する力	・観察したことを適切に表現したり、実験を正しく行ったりすることができない。 ・問題作りから結論を導くまでの思考の流れが定着していない。 ・用語を先行学習して知っている児童がいるが、内容を理解していない。そのため、授業での新出用語との混在をしてしまうことがある。	・実験や観察等の体験活動を増やし、気が付いたことを書いたり発表したりする機会を増やす。 ・問題作りにおいて、児童が解決可能だと見通しのもてる問題を立てられるように事象提示を工夫し、既習事項や身近な経験と問題を関係づけながら仮説を立てられるようにする。実験から考察についても、常に問題や仮説と比較させながら考えさせることで思考力の向上を図る。考察が難しい児童には記述する際の話型を示す。 ・言葉を正しく使って説明したりまとめたりする時間をとり、CBT タワーを活用して定着を図る。特に植物や動物に関する知識の底上げを図る。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
生活	・自然事象を継続的に観察し、植物に親しみをもち、大切にする姿勢 ・学校、または学区内の施設や人々の様子とその関わりが分かり、楽しく安心して学校生活を送ろうとする態度	・観察したことを観察カードに書くことはできるが、そこから気付きや発見をまとめていく力に課題がある。 ・友達に伝える表現力が十分ではない。	・観察の段階で具体的な視点を明確にし、カードにまとめる際には、個に応じたワークシートや課題を用意するなどの工夫をする。 ・ペアやグループでの話し合いを通して、気付きや発見をクラスで共有する時間を確保する。すぐれたワークシートを紹介して高め合わせる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	・音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする力 ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解する能力や表したい音楽表現をするために必要な技能	・よりよい表現を追求したり、深めたりしていくことに課題がある児童が多い。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダーなどの学習で、運指などの習得に差がある。	・自分が感じたことや気付いたことなどを友達同士で伝え合ったり、考えを広げたりしていく活動を取り入れる。 ・個別の練習時間を確保したり、一人一人の状況を確認したりしながらスモールステップで進めていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	・造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方について考え、創造的に発想や構想をしたり、作品に対する見方や感じ方を深めたりする力	・参考作品や友達の作品、物語や写真など創造的に発想したり構想したりする材料と深く触れ合い、自身の発想や構想を深める	・文章や音といった絵画要素のないものから発想を膨らませる授業に取り組む。 ・児童が互いの作品を見合える環境を作り、アイデアを得られやすくする。 ・題材導入時の交流を大切にし、発想のプロセスを共有させる。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	・日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それに係る技能	・技能面で個人差が大きく、学習活動に対する興味関心にも影響している。 ・自分なりに思考したことを、技能が追いつかず表現（製作）できない児童がいる。	・児童同士が教え合うことで、互いの理解を深める時間を設ける。 ・視覚的な動画教材を活用し、理解しやすくする。 ・反復学習により、技能の習熟を図る。

	育成を目指す資質・能力	新体力テスト、学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	・その特性に応じた各種運動の行い方や健康・安全について理解する力と、基本的な動きの技能 ・運動や健康について自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力 ・運動に親しみながら健康の保持増進と体力向上を目指し、豊かなスポーツライフを実現していく態度	・新体力テストの結果によると、どの学年のどの種目も区や都の平均を上回っている。 ・第6学年女子は、ソフトボール投げ,20mシャトルラン、握力が全国平均を下回っている。 ・握力は、全国平均を上回っているが数値が減少傾向にある。ボルダリングウォールができた当初に比べて、遊んでいる児童が少ない。 ・ボールを遠くに投げたり、長い時間走り続けたりする経験が日常的に少ない。運動が得意な児童と、全くできない児童とで二極化している。特に家庭や、塾での学習の量が多い高学年には、持久力や握力の低下が顕著にみられる。 ・学習については、個人の気持ちややりたいことのみが優先されてしまい、お互いに高め合える集団になっていない場面がある。勝ち負けを受け入れる態度も育っていない児童が多い。また、自己やグループの体力や実態に応じた課題を意識して運動することができる児童が少ない。	【体力向上】 ・各教室に配置されている握力計を活用したり、固定遊具やボルダリングウォールで遊ぶように声を掛けたりし、休み時間などに楽しみながら握力を高められるようにする。また、握力系の調整の仕方をすべての学年で練習し、できるようにさせる。（握力） ・昼休みにスポンジボールでの遊びを開放したり、体育館に的あての場をつくったりして、ボール投げの経験を増やすようにする。（投力） ・持久走カードや縄跳びカードを配布し、休み時間に挑戦できるようにする。また、学校全体で長縄の回数を高め合う取り組みを行う。（持久力） ・立ち幅跳び、反復横跳びの場を作り、いつでも記録に挑戦できるようにする。また、運動委員会の児童が、全校に挑戦を呼びかけるように促す。（跳躍力、瞬発力） ・授業の帯の時間で、キャッチボールや、握力アップ体操、短縄、持久走、柔軟ストレッチ等を実施することでそれぞれの体力の向上を図る。 【授業改善】 ・運動の楽しさを実感できる場の設定や教材を工夫したり、スモールステップで授業を進めたりしながら、基礎的な動きを身に付けるようにする。 ・一斉指導だけでなく、ICT を活用し、自己やグループの能力にあった試技や、技ポイントを動画等で視聴することができる環境を整えることによって、個別最適な学びができるようにする。 ・教員が指導する場合に、技能ポイントを理解して、明確に伝えられるようにする。 ・ICT を活用して、自分の動きを客観的に捉えて友達と課題を話し合うことで解決に導けるようにする。

			・チームやグループで作戦を立てたり、試合や練習を振り返ったりする時間を、体育の時間内で確保し、互いに協力して高め合えるようにする。 ・各領域の単元を始める際に、児童や前年度の担任に既習事項を確認し、系統性を意識した指導を行う。 ・自己やグループの実態や体力に応じた学習課題を立て、行動し、振り返りを行うといった学びのサイクルを確立するようにする。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
国際	・英語によるコミュニケーション能力 ・自国や他国の文化について学び、国際社会に対応できる国際人としての資質	・児童一人で発話・発表する機会に偏りがある。 ・相手意識を働かせて表現すること、自身の課題を見つけて学ぶことへの取り組みに個人差がある。	・全員が発話・発表する機会を保証し、自信をもって発表することを楽しめる授業づくりを行う。 ・単元の最終活動を魅力的なものにし、伝えたい内容を自身で考えることができるように、見通しをもたせ、必要な児童には具体的な支援を行う。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
道徳	・多様な考えに触れ、それぞれの考えを深め合う力 ・学んだ価値項目を実践していこうとする道徳的実践力	・集団で生活する力や規範意識が低い児童が多い。 ・学んだことを理解していても実生活で生かすことが難しい。	・道徳の授業では、考えを交流する機会を設け、多様な考えがあることに気づかせ、思考を深めるきっかけを作る。 ・他教科の学習や、行事、普段の生活の中でも児童の行動に道徳的価値づけをする。

	育成を目指す資質・能力	学級活動、学校行事等の課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
特別活動	・集団生活をよりよいものにするために、進んで話し合い、合意形成していくことができる力 ・主体的に行動する活動したり、協働的に学習を進めたりする力 ・自分の役割を自覚し、責任をもって活動することができる資質や能力	・自分の思いを優先し、他者の意見を受け入れたり、尊重したりできていない。 ・話し合いによって課題を解決できた経験が少ない。 ・話し合って挙がった意見をまとめることに課題がある。 ・主体的に行動する活動、協働的な学習の場面、児童の考えや意見が反映される機会が不十分。 ・役割や責任について考える機会が少ない。	・教師がモデルを示し、議題のもたせ方・話し合いのルールを明確に提示する。その後、児童主体の活動に移行させ、自己の言動等を振り返り改善につなげる。自分の思いだけにこだわるのではなく、多様な考えを尊重し合いながら合意形成に至る話し合いの仕方を身に付けることができるように、自分たちで解決する体験をさせたり、全体について考えることができるような助言したりする。 ・児童主体の学級活動や係や当番活動などを通じて、主体的に行動したり協働的に学習できたりできるようにする。そういった活動から役割や責任について考えられるようにしていく。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
総合的な学習の時間	・主体性と自律性: 児童が自ら考え、課題を設定し、その解決に向けて行動する力 ・協力とコミュニケーション: 他者と協力し、意見を交換し合いながら課題を解決する力	・児童が主体的に課題を設定する力が不足しているため、学習したことを深く掘り下げることができない。 ・課題解決に向けた協力とコミュニケーションのスキルが十分に発揮されていない。	・主体性と自律性の育成: 児童が主体的に課題を設定できるよう、日常生活や地域社会に関連する具体的な問題提起を行い、興味を引き出す。 ・協力とコミュニケーションの促進: 課題解決に向けて協力し合う力を育むために、グループ活動やディスカッションを通じて、他者とのコミュニケーションを促進する。 ・実体験を重視した学び: フィールドワークや実地調査を通じて、実際の経験を通じた学びを重視し、学習の成果を生活に生かす方法を具体的に示す。